

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	老人福祉施設管理運営事業(吉永)	コード	担当課	吉永市民福祉課 福祉係
		02-01-04-06	担当者	吉田 修
事業実施期間	昭和44年～			
総合計画 事業(政策)体系	大項目	健康でやさしさあふれるまちづくり		
	中項目	やさしさあふれるまちづくり		
	小項目	高齢者福祉		
	施策	生活支援サービスの充実		
		電話	(0869)84-2518	

事業について	
目的	高齢者福祉の増進を図り、生きがいを持って生活できる社会の構築を目指す。
対象(誰のために)	おおむね65歳以上の高齢者
内容	老人憩いの家、デイサービス施設の維持管理を行っている。また、特別養護老人ホーム建設費の借入償還を助成、養護老人ホームの事業負担を行っている。

事業の結果				
実施項目	17年度			
	回数など	(単位)	回数など	(単位)
老人憩いの家利用日数	100	日		
老人憩いの家会館日数	244	日		
特別養護老人ホーム助成金	19,569,750	円		
養護老人ホーム助成金	6,426,836	円		
デイサービス管理料	60,984	円		

事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	26,211	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	2,630	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	28,841	市債		合計	0	市債	

必要人員	0.25	人		
結果指標①	結果指標名	老人憩いの家利用日数		
	結果指標量	100		
	単位	日		
	対前年比	0.00%		
結果指標②	結果指標名	デイサービス延べ利用人数		
	結果指標量	4,742		
	単位	人		
	対前年比	0.00%		

事業の成果			
成果指標名	年間利用率	式又は説明	老人憩いの家利用日数/老人憩いの家会館日数(244日)
成果指標量	17年度 41.0%		
到達目標値	50.0%	到達目標年度	平成20年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	高齢者福祉の増進を図ることを目的としている事業である。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	コストの効率化	特別養護老人ホーム建設費の借入償還金の助成は、平成26年度で完済となるが、助成金の減額について(社)吉永福祉会と交渉する必要がある。(旧吉永町が債務負担行為をしている。)
	手段の最適化	
有効性の評価	市民の関与の妥当性	目的達成度 成果向上の可能性 市民参画度
	職場の効率化	
	市民参画度	

総合評価		評価区分 <A~E>
コメント	市の財政状況が悪いことから、特別養護老人ホーム助成金の減額について(社)吉永福祉会と交渉する必要がある。老人憩いの家については利用者の増加を図る必要がある。	C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	110日	結果指標量②	
目標値	結果指標量	45.1%	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	助成金の減額	18年度中	市の歳出(単独市費)が減少する。
有効性	老人クラブ等への利用啓発	随時	利用日数の増加

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である結果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。